

# びろっぱ

Vol.440 3



近森病院  
災害対応本部訓練 実施

表紙の写真

医療情報

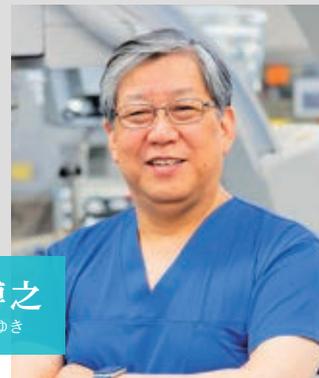
四国初!  
TAVI指導施設認定  
パパドクター育休取得

近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

4月			5月										
28日 (金)	29日 (土) 昭和の日	30日 (日)	1日 (月)	2日 (火)	3日 (水) 憲法記念日	4日 (木) みどりの日	5日 (金) こどもの日	6日 (土)	7日 (日)	8日 (月)			
通常診療	救急体制での診療		通常診療				救急体制での診療			通常診療			

ゴールデンウィークは  
暦通りの診療体制  
です。

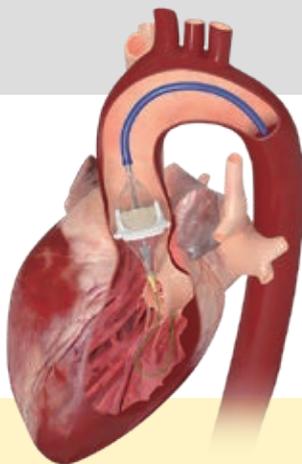
# 四国初! 全国で25番目 TAVI 指導施設 認定



TAVI実施責任者 入江 博之  
いりえ ひろゆき

1月31日 認定

近森病院ではこの度  
2023年1月31日付で  
TAVI(経カテーテル的大動脈  
弁置換術)指導施設に  
なることができました。



TAVIイメージ▶

## 指導医5名在籍

指導施設は全国で24施設(2022年末時点)しかありません。TAVIの施設認定は経験症例数、指導医数等を基に「実施施設」「専門施設」「指導施設」のどれかになります。当院も今まではひとつ下のランクの専門施設(四国に2施設)でした。

指導施設というのは年間100例以上のTAVIをこなし、常勤医に指導医が2名以上いること等が条件です。当院の場合指導医が5名、うち1名は他院の指導も行うインストラクターです。

## 指導施設になれば

指導施設になったことにより、**新しいTAVI弁**をいち早く使用できたり、また**TAVI弁の中にTAVI弁を入れる手技**をいち早く施行することが許されます。また、手技のライブによる教育を行うことができます。

何よりも、患者さんに熟練した医師達が経験を積んだスタッフと共にレベルの高いTAVI治療を提供できることを明確にできる意義が大きいと思います。



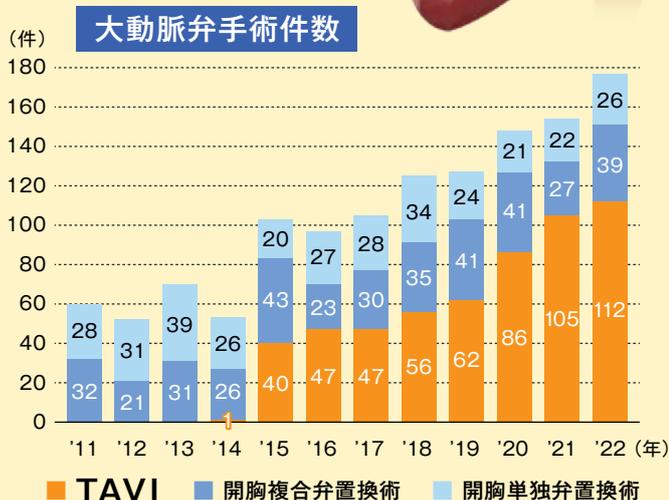
2023年4月から使用開始になる最新弁▶  
「Sapien3 Ultra Resilia」。石灰化抑制技術が施されており、弁の構造的劣化が起きにくいことが期待されています。

## 慢性透析患者さんへのTAVIも

また、慢性透析患者さんに対するTAVIも当然引き続き可能です(四国内2施設のみ)。

## 高知県の大動脈弁狭窄症患者さんに

ハートチームとして高齢先進県である高知県の大動脈弁狭窄症患者さんにより良い治療を提供できるように、引き続き頑張っていきたいと思います。



- 2008年 TAVIプロジェクト開始
- 2010年 3月 ハイブリッド手術室設計
- 2014年 12月11日 1例目 高知県初、四国2番目
- 2015年 5月27日 完全独立施設 四国初、全国20番目
- 2017年 3月23日 100例目達成
- 2019年 3月 7日 200例目達成
- 2019年 3月15日 専門施設認定 四国初、全国20番目
- 2021年 2月 慢性透析患者さんへのTAVI実施施設認定(当時全国26施設)
- 2023年 1月31日 指導施設認定 四国初、全国25番目

四国初!

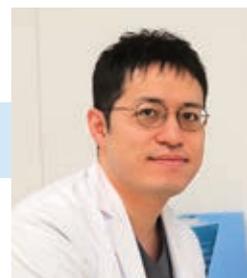
TAVI 特設ウェブサイト▶



論文・執筆掲載

吉田科長の業績報告

近森病院 リウマチ・膠原病内科 科長 吉田 剛 よしだ たけし



論文

超音波検査による関節リウマチ症例のサルコペニア診断の続報

論文名

Application of z-score-based quantification of muscle echogenicity for the diagnosis of sarcopenia in patients with rheumatoid arthritis

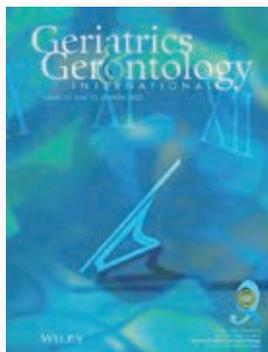
掲載誌

Geriatrics and Gerontology International

この研究は、2021年に私が報告した関節リウマチにおけるサルコペニア診断の論文の続編という位置づけであり、zスコアと呼ばれる統計量を用いて、より簡便かつ正確にサルコペニアのエコー診断が可能であることを発表しました。

高齢化が進行する現代の日本において、臨床現場でのサルコペニアの評価には大きなアンメットニーズ(\*)がありますので、少しでもそのニーズに応えるべく、研究を進めていきたいと思えます。

\*アンメットニーズ…まだ満たされていないニーズ。



執筆

症例を基にしたむくみの診断と治療のご紹介

掲載誌

総合診療で診逃さない！  
むくみの原因とピットフォール  
(診断と治療社 出版)

総論(画像診断)と各論(5章)を担当させていただきました。むくみはリウマチ膠原病をはじめとする内科疾患では日常的に目にする症状ですが、しばしばその鑑別と病態生理の解釈は難しいことがあります。

本書は総論で基礎的な理解を得た後に、症例をベースにむくみの診断と治療を解説するものです。医療に携わる多くの方に見ていただきたい内容となっておりますので、ぜひ書店などで手に取っていただけましたら幸いです。



執筆

内視鏡検査治療をする上での視野確保のコツ  
「gel immersion endoscopy」

近森病院 消化器内科 矢野 慶太郎  
やの けいたろう



医学書院の消化器関連webサイト「gastropedia」の企画で執筆の機会をいただきました。

書籍や雑誌を読んで最新の治療法やガイドラインなどを勉強することもあります。最近では誰でも自分のスマホやパソコンでインターネット検索をしたら専門的内容をすぐに調べることができます。スマホで動画付き論文を見ることもできますし、YouTubeなど動画共有サービスでも研修医向け手技動画や内視鏡処置のコツも自由に閲覧することができます。ちなみに私はYouTubeでゴルフレッスン動画も見たいですが、練習不足なのかセンスがないのかなかなか上達しません。

今回「gastropedia」で「gel immersion endoscopy」という内視鏡検査治療をする上での視野確保のコツについて執筆しました。消化器内視鏡は狭い消化管内での操作を全て術者の手元で行います

掲載webサイト

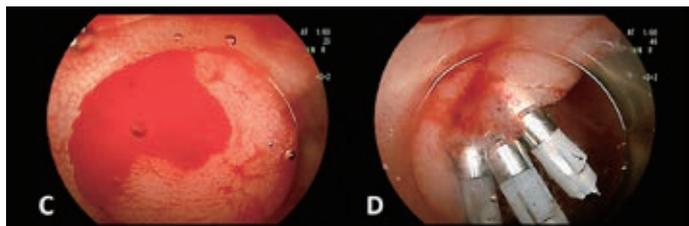
gastropedia  
(消化器関連webサイト)



閲覧はこちらから →

※閲覧には無料の会員登録(医療関係者に限る)が必要です。

▼ 回盲弁に湧出性の出血点を認めたが(写真C)、gelの粘性により出血は緩徐となり、容易にクリップ縫縮で止血できた(写真D)1例



が、血液や便により視界が悪くなることがあります。そんな時は内視鏡から透明なgelを注入し、目の前の血液や残渣を押し除けることで綺麗な視界が得られます。ここではその詳細については述べられませんので、ご興味のある方は是非ご自身のスマホで検索してみてください。

資格取得

病理専門医

病態の真実に  
近づけるように

近森病院 病理診断科  
坂西 誠秀 ばんざい せいしゅう



病理の世界に入り、病理解剖のみならず顕微鏡の検索においても非常に動的世界であることを日々実感しています。標本の中を走り回りながら丁寧に所見を探し求め病態を考察していると、研修医時代に温かく熱い、各科の先生方を始め全てのスタッフの方々のもと学ばせて頂いていた頃を思い出します。

正しく事実を得、理解し、正確な結果を残すためには、単に見るのではなく複数の眼が必要であると思います。感覚器としての眼、知識の眼、そして最も大切な心のこもった眼など、複数の眼をいつも磨き続けながら診断に臨んで参ります。

病「理」医として、患者さんの身体に生じている病態の真実に少しでも近づけるように研鑽を積んで参ります。



救急科専門医

積み重ねた経験を  
力に

近森病院 救急科  
久 雅行 ひさ まさゆき



この度、救急科専門医試験に無事合格し、晴れて救急専門医とすることができました。

初期研修からこれまでずっと近森病院で勤めてきて、気がつくとも8年が経ちました。日々の診療を支えてくれているERスタッフの皆には感謝しかありません。この病院でこれまで本当に沢山の救急患者さんとの出会い、経験を積ませていただいたことが今の自分につながっているのだと思います。

また初期研修後の2年間は消化器内科に所属していましたが、救急で内科での経験が活かされている他、今でも不定期ですが内視鏡検査をさせていただいており、消化器内科の先生方にはいつも感謝しています。

今後は集中治療や他科との連携をさらに強めていけるように、引き続き精進していきたいと思っています。



学会受賞

初めての受賞 2022年12月2~3日



初期研修医1年目  
山内 涼平  
やまうち りょうへい



第33回 日本リウマチ学会 中国・四国支部学術集会

敢闘賞 受賞

演題 SLEとの鑑別に難渋した播種性帯状疱疹に伴うウイルス性肺炎の一例

この度、日本リウマチ学会 中国・四国支部学術集会で発表させていただき、上記の賞をいただくことができました。今回の受賞に際して、スライドのチェックなど、何か月も前から丁寧に指導してくださったリウマチ・膠原病内科の吉田先生及び、公文先生にはとても感謝しております。

今回発表させていただいた症例は、私がリウマチ・膠原病内科をローテーションしていた時に実際に担当していました。日常の診療で担当している症例について、ここまで掘り下げて文献の検索などを行う機会は少なかったので非常に良い経験になりました。

今回は研修医奨励賞には及ばず、敢闘賞という結果でしたが、今後も精進していきたいと思いました。

# 日本看護協会

## 認定看護管理者

### つながりを大切に

近森病院 看護部 副看護部長  
齊藤 尚子 さいとう なおこ



資格取得にあたっては、多くの出会いがあり、ネットワークを通して相談や支援しあえる仲間を持てたことは、これから看護管理者として活動していく上で大きな糧となりました。地域包括ケアシステムが推し進められていく中で、医療・生活支援を含む幅広い専門性を有する看護職の役割も拡大しています。

今まで以上に看護職同士の「看看連携」や多職種を含めた連携で、近森病院の看護が地域へと拡がり、地域貢献にもつながるよう取り組んでいきたいと思っています。

### 感謝と情熱を持って

近森病院 看護部 副看護部長  
工藤 淑恵 くどう よしえ



今回の受験に際し、恩師の後押しや、レポートを添削し合った仲間の存在、先輩・同僚からの貴重なアドバイスなど、たくさんの方に支えていただき感謝しています。

看護師人生も終盤にさしかかってきましたが、今後も看護への情熱は絶やさず、先を見据えた看護部の運営に微力ながらも力を注ぎ、次世代につなげていきたいと思っています。

### 幅広い視野を大切に

近森病院 5階B病棟 看護師長  
濱口 富代 はまぐち とみよ



看護管理者とは、患者・家族に対してより質の高いサービスを提供できるよう、自身が管理する組織の課題を明らかにし、組織内の様々な部署や人に働きかけて、組織全体のサービス提供体制の向上に取り組む必要があると考えます。更に、良質な看護サービスの維持、医療安全、教育体制、職場環境など全てにおいて、いかに効率よく良質な看護が提供できるかを管理できる知識を持つことが重要と考えます。

医療を取り巻く環境が目まぐるしく変化していく中で、様々な資源を活用しながら、幅広い視野を持つことを大切に行動し、組織全体の質は看護の質が要と考え、この役割を果たしていきたいと思っています。



# 認定資格 取得

この度、新たに5名が資格を取得しました。近森会グループには、こちらの5名を含め、**専門看護師6名、認定看護師11名、認定看護管理者6名**の資格認定者が在籍しています。

## 老人看護専門看護師

### その人らしい生活のために

近森病院 北館2階病棟 看護師  
明神 拓也 みょうじん たくや



この度、老人看護専門看護師の資格を取得することが出来ました。

高齢化が進み、急性期病院に入院する患者さんも高齢の方が多数を占めています。主病のみならず老化による影響で、合併症や食事・排泄等生活面の問題、認知機能の低下、意思決定の難しさ等がみられることも多くあります。そういった状況に置かれた高齢患者さんを、少しでもその人らしい生活へと向かっていけるように、これまでのその人の人生も踏まえた上で、一緒に考え、対応していきたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

### シームレスなケアを

近森病院 6階B病棟 看護師  
徳留 裕也 とくどめ ゆうや



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、急性期から患者さんの重篤化回避のためのモニタリングとケア、合併症予防、廃用症候群予防と早期リハビリテーションを実践します。脳卒中患者を専門的かつ集中的に治療・看護を行うチーム医療においてリーダーシップをとり、脳卒中患者の回復期、生活期を見据えながらシームレスに社会復帰やQOL向上に貢献できるように活動を行っていきます。

また当院は一次脳卒中センターコア施設に認定されており、2022年より入院・外来患者さんを対象とした脳卒中相談窓口を設置し、再発予防の啓発、退院後の生活支援を行っています。まだ始まったばかりで認知度も低く、今年はこちらの活動にも力を入れていきたいと考えています。

日本で  
3番目

エコカテーテルの使用



使用済み機器の  
収集の様子

単回使用医療機器の再製造  
～世界の新しい潮流に乗って～

昨今の世界的な原材料不足や価格高騰の影響で、当院でも多岐に渡る物品において欠品、供給遅延が起きています。カテーテルアブレーション治療に不可欠な心臓カテーテルにも、ついにその影響が及んできました。

そんな中、当該製品の再製造品が12月1日より発売されました。オリジナル品の安定供給再開の見通しが立たない中、当院でも再製造のカテーテルを臨床使用しました。オペレーターを担当した循環器内科の三戸部長によると、オリジナル品との使用感の差はなかったとのこと。

当院は2021年9月より、再製造品販売のためのオリジナル品の収集に取り組んでいますが、供給不足にお困りの医療施設へ、少しでも多く届くことに繋がれば幸いです。



診療支援部  
施設用度課 課長補佐  
小倉 夢  
おぐら かなえ

医療機器の再製造とは

使用済みの単回使用医療機器（一回限り使用できることとされている医療機器）が必要な処理を経て、再び使用できるようにすることを「再製造」といいます。



▲再製造心腔内超音波カテーテルV



こうち食支援ネット様へ災害備蓄食寄付

近森病院 臨床栄養部  
管理栄養士 副部長 内山 里美 うちやま さとみ

災害時用として患者さんと職員分に備蓄しているカレーピラフと海鮮おこわ2,300食分を、こうち食支援ネット様に寄贈しました。これらは食事支援を必要とする方々に届けられます。こうち食支援ネット様では、個人の寄付も受付けておりますので、興味のある方はサイトをのぞいてみてください。

こうち食支援ネット 川口 玲子様  
かわぐち れいこ

昨年に引き続きのご寄付ありがとうございます。新型コロナ感染症も収まる気配がないまま、物価高も加わり、県内においての食支援のニーズはますます高まっています。こうして関心を寄せていただけるのは、非常にありがたいです。いただいたご支援は、地域の支援団体（こども食堂、市町村社協、スクールソーシャルワーカー、地域包括支援センター、児童支援団体など）に提供をしております。大切に使用させていただきます。

こうち食支援ネット  
ウェブサイト



左より、内山副部長、災害対策委員会 井原委員長、川口様、三谷危機管理部長、楠瀬災害対策室長





## おとうさんといっしょ ～育児休業体験談～

近森病院 脳神経外科 奥根 亨也  
おくね ゆきや



最近、病棟で見かける私の姿に、より一層の凛々しさを感じる方も多いのではないでしょうか。それもそのはず、昨年11月に1児のパパとなり気力に満ち溢れているからです。

さて、昨年12月に育児休業を取得させていただきました。脳神経外科の12月は忙しい時期ですが、医局の皆様が助めてくださり1週間たっぷり我が子に尽くす事ができました。妻も私も初めての育児はわからない事だらけですが、一緒に悩み、子の笑顔に歓喜し、家族の絆を深めるかけがえのない時間となりました。

男性の育児休業も世間で浸透してきましたが、自分から希望を出すのには少し勇気もいります。私のように、職場の方々に背中を押してもらえるのは幸せですが、子育てへの理解がさらに広がっていくことを願っています。

おや、かわいい泣き声します。そろそろミルクの時間ですね。

## 近森病院 患者さん アンケート 結果報告

第1回

近森病院では、毎月退院患者さんへ満足度アンケート調査を行っております。

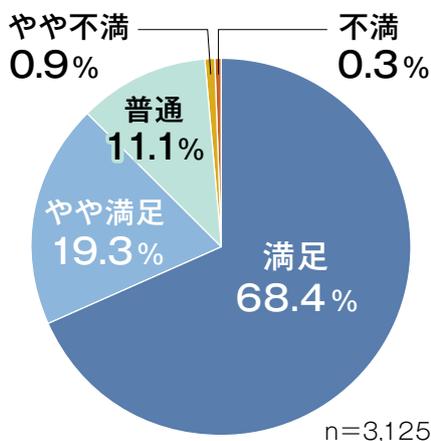
また、外来患者さんにも「ご意見箱」を設置して、患者さんからの声を振り返りと改善活動に活かしています。

今月から、ご意見いただいた内容をもとに、2022年に行った改善活動についてご紹介していきます。



▲本館1階薬局前の掲示板にて、数値結果とご意見および該当部署からの回答を公開しています。  
(下にあるのがご意見箱)

### Q. 総合的な満足度は いかがでしょうか。



対象 2021年12月16日～  
2022年12月15日  
退院患者さん

回収率 31.3%

### 改善例

1

2021年5月、使用頻度の観点から外来センター1階のNTT公衆電話が撤去となりました。3階設置分は残っていましたが、「携帯電話を持っていないので困る」、「3階は遠い、足が悪いので1階設置分を戻して欲しい」などの要望が数カ月及び15件も寄せられました。

そこで、病院側で公衆電話を独自に設置することにし、12月に再設置が完了しました。

2022年1月からは感謝のお声を多く頂いております。

ご家族やタクシーを呼ぶために会計後にお電話する方が多く、改めて1階に必要だと感じました。これからも、患者さんアンケートからニーズを汲み取り、サービス向上に努めたいと思います!



▲改善担当：施設用度課  
(左：宮下課長、右：松岡課員)

# 近森病院 災害対応本部訓練実施

2022年11月19日



## 南海トラフ地震を正しく恐れ、 復興のための希望と力を

### 災害拠点病院として 患者・付き添い・スタッフの生命を守るために

災害拠点病院である近森病院では、南海トラフ地震をはじめとする災害にできるだけ適切な対応ができるよう、毎年災害対応訓練を行っています。その最大の目的は入院患者さんや外来患者さん及びその付き添いの方たちの生命を守ることにあります。また、医療組織として多数のスタッフが当医療グループには勤務しており、災害時医療の継続と復旧のためにもスタッフの生命も守らなければなりません。

### 日常と非日常で変わるもの、変わらぬもの

災害は日常とは異なる組織運用を行います。ほとんどのスタッフはそのような組織運用に習熟していません。しかしながら「生命を守る」という目的は日常と何ら変わりがありません。非常事態にも多くのスタッフが混乱することなく生命を守る行動がとれるよう、今後も訓練を積み重ねつつ、災害に対して少しでも多くの備えが必要です。



各グループ長から振り返り。  
ちなみに、有事の際には本部長はじめ、グループ長の擁立など、初動のチーム立上げが重要だそう。

### 機動性を重視し、9階から3階へ本部を変更

今回から、より高い機動性と情報収集力を目指し、従来の本館A棟9階から、本館3階カンファルムへと本部を変更しました。新しいことに取り組みつつ、参加者には詳細なシナリオを提示しない形式で行うなど、実際の災害に近い緊張感を保ったまま、多くのスタッフが真剣に取り組みました。

### 正しく恐れる ～普段の訓練を通して～

南海トラフ地震の発生可能性は1年を通してマスコミでも定期的に話題になり、国や専門家らによる被災シミュレーションが作られるごとにその被害が甚大であることが強調されます。しかし、あまりに大きな被害想定との提示と危機感の煽りを繰り返すだけになると無気力・無関心(アパシー)に繋がってしまう可能性があり、これだけは避けなければなりません。

高知に生きている私たちは正しく南海トラフ地震を恐れるとともに、もし起きたとしても高知が復興するための希望と力を持ち続けることが大切だと思います。



近森病院  
災害対策委員会 委員長  
救急科 部長  
井原 則之  
いはらのりゆき

## 近森病院 備蓄 概要



### ■ 食料+飲料水(調理水含む)

1 患者&職員  
1,500人分×3日分

内訳  
・患者並食…300人分  
・患者全粥…200人分  
+経管栄養食、ゼリー食、  
サプリメント食  
・職員…1,000人分

2 保育室小児  
100人分×3日分

園児約30~60人・  
大人(先生+職員)20~35人  
備蓄食自体は小児ベースで計算。

### ■ 医薬品3日分

災害時における当院の病院機能を想定して算出しているため、従来よりは品目、数量が絞られる。(県からの委託薬品を含む)

### ■ 自家発電設備

(浸水想定時の見込み稼働可能時間)

※実際の稼働時間は使用電力量などの諸条件によって変動あり。

・本館A棟	96.0時間 (地下タンクNG時は3.5時間)
・本館BC棟	2.5時間
・北館	24.0時間
・総合心療センター	2.8時間
・外来センター	9.0時間
・管理棟	2.5時間
・管理棟別館	3.5時間

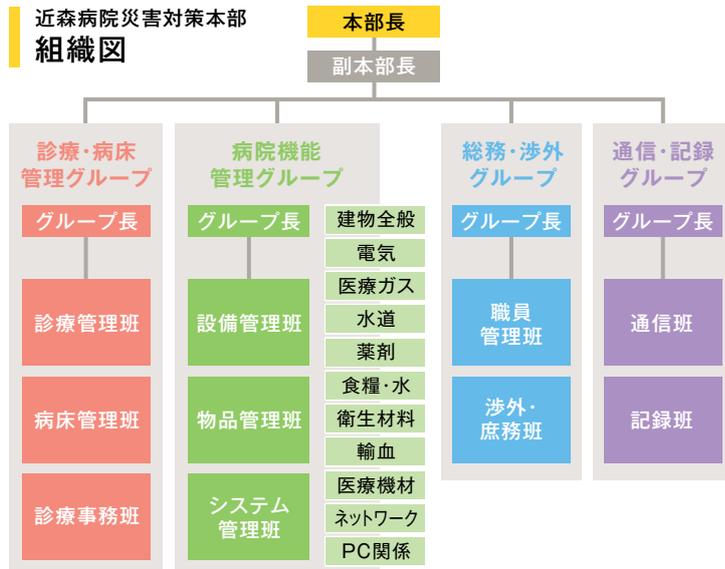
## 訓練の想定

平日AM9時頃、四国沖を震源とするM8.4の地震が発生。高知市では震度6以上の強い揺れを観測、沿岸部には大津波警報が発令された。



本部長は救命救急センター救急科 三木科長が務めた。

## 近森病院災害対策本部 組織図



診療・病床管理グループ



病院機能管理グループ



総務・渉外グループ



通信・記録グループ



▲ 浸水想定で病棟患者搬送訓練。エアースレッチャーは持ち上げず地面を擦ることで負担軽減。しっかり固定され、痛みや恐怖はなかったそう。



▲ 1階薬局より薬剤持ち出し訓練。薬剤師の指示で浸水しない3階へ人力運搬。



● その他、ヘリポートへの移送訓練も行われた。



▲ 災害対策ワーキングメンバー。訓練の前日ミーティングにて、リアリティの追求だけでなく、学びと意識付けが得られるよう訓練を作り上げる。

テレビで放映  
されます!



NHKスペシャル  
番組ウェブサイト

井原部長が取材協力をしました。下記で放送予定です。ぜひご覧ください。

### ① 全国放送 NHKスペシャル「南海トラフ巨大地震」

第1部(前編)／悪夢へのカウントダウン(仮)  
【放送予定】3月4日(土) [総合]後7:30~8:48

第1部(後編)／最悪のシナリオを超えて(仮)  
【放送予定】3月4日(土) [総合]後10:00~10:54

第2部／巨大地震にどう備えるか(仮)  
【放送予定】3月5日(日) [総合]後9:00~9:59

### ② NHK高知放送局にて

【放送予定】  
3月10日(金) [総合]後7:30~



## 熱烈応援 昇格人事

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

### 気持ちに寄り添う

近森病院 整形外科 部長 井ノ口 崇 いのくち たかし

この度、整形外科部長職を拝命しました。私は、患者さんやご家族の気持ちに寄り添うことを、毎日の目標にしています。専門とする脊椎内視鏡手術の技術に磨きをかけるとともに、一緒に仕事がしたいという若手の育成に力を入れて参ります。

話し易いキャラを目指しているので、いつでもお声がけ下さい。よろしくお願いします。



**【出身大学】** 自治医科大学 2001年卒業  
**【専門分野】** 最小侵襲脊椎手術、外傷手術  
**【主に担当する疾患・手技】** 脊椎内視鏡手術、脊椎外傷  
**【認定資格】** ・日本整形外科学会・整形外科専門医  
 ・日本整形外科学会・認定脊椎脊髄病医  
 ・日本脊椎脊髄病学会・指導医  
 ・日本整形外科学会・リウマチ医  
 ・日本スポーツ協会 公認スポーツドクター

### 仲間の力を借りて

私の所属するCSチームは配属当初と比べ、カテーテル検査室だけでなくオペ室やIVR室での手技にも介入するようになり、専門性の高い多岐にわたる業務を行っています。

業務が拡大したことで大変なこともあります。チームの仲間一人一人の力を借りてより良い医療を提供できるように努力していきます。



臨床工学部  
臨床工学技士 主任  
小松 大悟 こまつ だいご

### 感謝

不安定で予測困難な現代では最強といえる経営資源、“近森のff(自由に柔軟に)”が活きる病院づくりにつとめます。

日頃は行き届かないことが多く申し訳ありません。精一杯やりますので、どうかご指導をお願いします。



診療支援部 施設用度課 課長  
宮下 公将 みやした まさゆき

### ハッスル研修医

### 約1年が経ち

東京都出身で、昨年の4月に高知県へ引っ越してきました。初めての土地で、初めての業務ということもあり当初は慣れることに精一杯でした。患者さんの伝えたがっていることを上手く汲み取れず悩むこともありましたが、今では土佐弁にも慣れてきました。

そのようにバタバタと始まった研修ですが、早くも1年が経とうとしています。内科系を前半にまわり、現在はERで研修をしていますが、病院内にも知り合いのコミディカルの方が徐々に増えてきて楽しく勉強させていただいています。近森病院での研修は、上級医やコミディカルの方達が熱心に教えてくださり、勉強会なども多く非常に勉強になっています。また何より誰にでも相談や質問をしやすいことが魅力的で、いろいろなことを吸収させてもらっています。

研修があっという間に過ぎていくため残りの研修生活を有意義に過ごせるように、今後も引き締めて頑張っていこうと思います。皆様にはご迷惑をおかけすることも多いかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。



初期研修医 1年目  
橋本 温子 はしもと あつこ

### New face

ニューフェイス

- ① 所属 ② 出身地 ③ 最終出身校  
④ 卒業年次 ⑤ 趣味など

### 衣笠 由祐

きぬがさ ゆうすけ

- ① 心臓血管外科 科長 (研修戻り)

- ② 高知県  
③ 高知大学 ④ 2012年  
⑤ 今世の中で走っている車の中でMT車は1%だそうです。人生の中で中々1%に入るのは難しいので今年はMTを買います。おすすぬめあれば教えてください。



# 退職

ごあいさつ

近森リハビリテーション病院  
理学療法科 科長補佐

松村 文雄

まつむら ふみお

在職 1988.3.24~2023.3.31

## これまで支えていただいた 皆様に感謝

1988年に近森会に就職し今年の3月で35年になります。楽な方へ流れてしまう自分自身を変えるため、近森会ならリハスタッフが揃っており、いろんな経験ができると思い就職を決めました。



### 激動のPT人生

当時の理学療法室には、PT13名、助手7名、マッサージ師3名のスタッフがいました。入職時は駅前の分院で勤務し、その後近森リハ病院、近森病院の整形外科、療護施設(出向)、在宅総合ケアセンター近森と色々な施設での業務を経験しました。その中でも近森リハ病院では延べ30年にわたりお世話になりました。

### 印象深い仲間たちとの思い出

働き始めて数ヶ月経った頃、症例検討会で先輩からの指導が辛く、辞めようと思ったこともありましたが、小笠原さん(現統括リハ部長)に励まされ、今まで働き続けることができました。主任としてチームリーダーをしていた頃は、高芝さん(現リハ病院・リハ部科長)が新人で入職し、何を言っても考えを曲げない頑固さに、頭にきてほったらかしにしたこともありましたが、しかし、何年か経って私が困っている時、快く手伝ってくれたことがあり、今はとても感謝しています。リハ部チーフとして病棟でのリハ部のまとめ役になった時は、和田先生(現リハ病院院長)の病棟で働くことになり、緊張感もありましたが楽しく仕事をさせて頂きました。

### 感謝を ~多くの仲間と共に~

もともと視力障害があり、管理職として、またPTとしても仕事を続ける事は難しい状況になっていましたが、多くの方に支えられてここまでやってこれたと思っています。近森会の皆様、本当にありがとうございました。



▲ ひろつば 1999年6月号



▲ 2022年3月、和田院長と  
(75周年記念写真集撮影の一コマ)

## 苦楽を共にした仲間の第二の人生が 幸多くあらんことを

近森リハビリテーション病院  
リハビリテーション部 統括部長 小笠原 正 おがさわら ただし

※集合写真前列中央

松村さんは1988年に近森会に就職されており、私と松村さんの付き合いはかれこれ35年になります。たぶん現在の近森会のリハ部の職員の中では一番長い付き合いになると思います。また、この間にリハ部門では近森リハビリテーション病院や在宅総合ケアセンター近森の開設、近森リハビリテーション病院の増築(増床)、新病院への移転というリハ体制の充実に向けた大きなプロジェクトが推進されました。松村さんは、現在ではこのような近森リハの歴史を知る数少ない職員であり、私にとっては戦友のような存在でもありました。今回は諸事情で少し早い退職となり残念です。たぶんこの

ような思いを持っている職員は私以外にたくさんいると思います。

### 皆に慕われた人となり

松村さんはいろいろな相談を親身になって聞いてくれる上司としてスタッフからも慕われており、私も愚痴を聞いてもらったり、相談に乗ってもらったり随分助けられました。また松村さんの患者さんに対する評価やアプローチ、あきらめない姿勢には一目置かれるものがあり、患者さんからも厚い信頼がありました。たぶん松村さんの退職の話を知ると残念に思う患者さんも多いと思います。

### 寂しさを感じとエールにかけて

このように長きにわたり苦楽を共にした同僚がいなくなることは寂しいですが、これからは少しゆっくりと第二の人生を謳歌してもらいたいと思っています。本当に長い間お疲れさまでした。



## リレーエッセイ

## お菓子作りのある生活

近森オルソリハビリテーション病院  
3階病棟 看護師

片岡 真知子 かたおか まちこ



友人へのちょっとしたお礼や誕生日、女子会などに手作りの焼き菓子やケーキはいかがですか。

お菓子作りのきっかけは、友人の誕生日ケーキを焼いたのが始まりでした。初めて焼いたケーキは硬くてパサパサ、お世辞にも美味しいとは言えない出来上がり。そんなケーキを「ありがとう、美味しいよ」と友人は笑顔で食べてくれました。それから時間がある時はお菓子やケーキを作るようになり、今では沢山の方に喜んでもらえるお菓子が作れるようになりました。中でもシフォンケーキが得意で、焼き上がりはしっとりふわふわで、その食感は幸せな気持ちになります。

毎年クリスマスにはシフォンケーキでクリス



マスケーキを作り友人へプレゼントしています。シフォンケーキ以外にもタルトやカヌレなど色なお菓子作りに挑戦中です。まだまだ失敗もするし思い通りに作れない事もあるけどお菓子作りのある生活を楽しんでいます。



## 私の趣味

## サッカー観戦

近森リハビリテーション病院  
5階病棟西 看護師

中尾 来実 なかお くるみ



昔から趣味と言えそうなものが無く、「趣味は何ですか?」と聞かれると、毎回返答に困っていました。

趣味に没頭する人を見ると格好良いなと憧れ、水彩絵の具を買ってみたり、スポーツジムに会員登録をしたことありますが、どれも1ヶ月と続かない状態です。

そんな私ですが、長男が小学校入学を機にサッカーを始め、練習の送迎をしたり

試合を観戦に行くなかで、すっかり息子のサッカーに本人以上にはまってしまいました。サッカーのルールも今一つ理解出来ていませんが、試合中は好き勝手に声援を送り、同じチームの保護者同士で毎回盛り上がっています。これから高学年になると大会も増え、県外への遠征もあるので更に楽しみです。

まだ下に次男と三男もいて、5歳の次男は既に小学校に入学したらサッカーをしたいと言っているので、私の趣味はしばらく続けられそうです。



## FREE 私の〇〇

まるまる  
〇〇にフリーワードを入れて  
語っていただきました

近森病院  
リハビリテーション部  
理学療法士 主任

清岡 佳奈  
きよおか かな



## 私の「チャレンジ」～介護支援専門員の試験合格、今後の実務研修に向けて～

患者さんは色々な場所から入院され、治療が終了すると元の生活場所や新たな生活場所へ退院されます。医療機関でしか働いたことのない私は、「在宅生活環境のことをもう少し学びたい」と考える様になり、介護支援専門員の資格取得に向け取り組むこととなりました。

いざ、学び始めると介護支援分野、保健医療サービス分野、福祉サービス分野と幅広く、また奥深く、多くの学びとなっています。介護支援専門員は、利用者さんの自立支援に向け関わり、エンパワーメント(強み)を引き出すことで、その方らしい生活が送れるよう支援しています。利用者さんに色々な角度から提案が出来るよう多くの情報やネットワーク作りが不可欠であるということも分かりました。

実務研修受講試験後の実務研修では、幅広い年齢層の様々な職種の方が受講されており、多くの意見や考えが聞かれ刺激的な学びとなっています。ここでの経験は今後の私の実業務で生きてくと信じています。



▲試験に合格後の実務研修用のテキスト。上巻の厚さは約3cm。

# 今月のちかもり食

エームサービス株式会社

## 12月31日・1月1日のメニュー

年末は夕食に「年越しそば」、元旦には朝食に「おせち」を提供いたしました。

おせちの黒豆は竹の形をした器に入れ、

お正月らしさを感じられるようにしております。

入院中の患者様も年末年始をお食事から感じていただけたらと思っております。

今年も頑張っていきたいと思っております。



## 歳時記

### 節分(2月3日)

今年も保育室そとに鬼さんがやってきました。鬼退治の練習をして本番を迎えましたが、果たして…。



近森会グループ

## 献血

キャンペーン

400ml限定

3/29(水)

12:30~17:15

場所

近森病院 総合受付  
玄関前駐車場

昨年度の  
上位参加者

※2022年度の献血上位参加者表彰も同時開催予定。



## 目指せ! 全員合格!!

近森病院附属看護学校 専任教員 島本 恵 (しまもと めぐみ)



2月12日に第112回看護師国家試験が実施され、今年は6期生43名が受験しました。卒業に必要なすべての授業・実習を修了し、試験前には国家試験に向けて学生同士で勉強し合う様子が学内のあちこちで見られました。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザのW流行の中、試験へのプレッシャーだけでなく感染への不安も抱きながら、試験本番ギリギリまで全国模試の実施や学内外の講師による問題解説など、試験勉強に取り組みました。これまで努力を重ねてきた分、合格発表までの間は、新生活へ向けての充電期間にしたいと思います。

## 編集室通信

「人生100年時代」と言われる今の時代。半分を折り返した私が「私、このままでいいのかな?」と、忙しい毎日を過ごしていて、ふと我に返る時があります。そんな日常を離れて、静かな場所でゆっくり自分に向き合いたいと思い、おへんろガールに挑戦することにしました。コロナが落ち着き自粛していた生活から、今までとは違う自分探しに出かけてみませんか。 由似

## 診療数 令和5年1月

— 電子カルテ管理課 —

### ● 近森会グループ

外来患者数 ..... 16,514人  
新入院患者数 ..... 757人  
退院患者数 ..... 677人

### ● 近森病院(急性期)

平均在院日数 ..... 16.84日  
地域医療支援病院 紹介率 ..... 100.54%  
地域医療支援病院 逆紹介率 ..... 354.65%  
救急車搬入件数 ..... 490件  
うち入院件数 ..... 275件  
手術件数 ..... 383件  
うち手術室実施 ..... 226件  
うち全身麻酔件数 ..... 156件



## 看護学校通信

# 齋坂美賀子

Mikako Saisaka

近森病院 ICU病棟 看護師  
急性・重症患者看護専門看護師

聞き手／ひろっぱ編集部



「悩み」克服のために  
専門看護師資格を取得  
臨床でさらに「看護」を  
突き詰めたい

## ICU・ER看護を追求したい

2021年3月、長年の目標であった急性・重症患者看護専門看護師の資格を取得した、ICUに勤務する齋坂看護師。一見、楚々とした雰囲気も漂うが、内からは芯が通ったたくましさを感じ、看護への思いを話せば止まらないほどの情熱を持つ。

看護人生は愛媛県立今治病院でスタートを切った。いきなりICUに配属され、自分の行動一つで病状が変わるのではないかという不安と緊張が続いた。ようやく慣れてきた5年目に高知医療センターが開院するタイミングで帰高。そこではまず一般病棟に配属されたが、ICUか救急を希望し救急外来へ。

「その頃の自分は、たくさんの患者さんが運ばれてきては目の前を通り過ぎていくため、患者さんとの関係が薄いのでは？看護のやりがいとは？などと考えていました」。反応のない患者さんへのケアに対しても、状態の改善のために必要と理解しつつも、それが患者さんが望んでいることなのか、独りよがりになっていないか、自分の看護に確信が持てなかった。

その後、救急研修などで知り合ったドクターの紹介で近森病院に就職。新しい環境で改めて「自分の看護」を探すため、大学院で急性・重症患者看護を学ぶことにした。

## 今までの考え方を壊し均す2年間

専門看護師資格取得での一番の学びは、物事の捉え方だと言う。「入学早々に、

『経験で偏った考えを一度壊してください。そして自分のクセで患者さんを見てはいけません。まずは自分を知ることが課題』と言われました。無意識に見ないようにしていた自分の内面を突きつけられるような作業は辛かったですが、いかに自分が見たいように見ていたかを痛感しました。でも、自分は楽観的な部分があるようで、楽しいとも感じていました」と笑う。

自分の道が拓けた今、近森のチーム医療の一員として、スタッフの能力を底上げして（盛り上げて）いくことも使命と認識する。「近森のスタッフはそれぞれのスキルが高いので、他職種の方のアドバイスを言葉だけでなくその背景まで掘り下げて考えていきたいです。何よりも患者さんの視点を常に考えながらサポートできるように最大限努力したいと思っています」と語る言葉は熱を帯びた。

## キャンプを楽しみつつ インドア生活も満喫

プライベートでは高知医療センターの救命救急センター長である夫と猫2匹と暮らす。「あまり休みは合いませんが、それぐらいがいい感じ。合えば嬉しいし…」と照れを含めつつ「夫は資格取得の時も



サポートしてくれた善き理解者です」と感謝を述べる。

最近では2人してキャンプにはまっているようで、庭でBBQをすることも。いろいろ焼いてはお酒を飲んで夫婦水入らずを楽しんでいる様子。1人の休みの時は動画配信でアニメを一気見するのが至福の時間に。『鬼滅の刃』、『呪術廻戦』、『ハイキュー!!』、『チェンソーマン』など、話題作をほぼ網羅。ちなみに今気に入っている言葉は「才能は開花させるもの センスは磨くもの（バレーボールアニメ『ハイキュー!!』より）」という。

## 「強みが弱い」という コンプレックスからの脱却

小学生の頃はピアノ、そろばん、習字、バレーボールと習い事の毎日。中学では吹奏楽部に所属しフルートを担当した。おかげで特技は多いが、「強み」というレベルでないことがひっかかっていた。看護師として重症患者を担当するなかでも得意の先が見えてこなかった。専門看護師の資格は、「強みが弱い」というコンプレックスへの挑戦でもあった。現在45歳で、「今からが正念場」と自分磨きを怠ることなく信頼を得ていきたいと抱負を語ってくれた。

